

心に残る文化財子ども塾 雲南市立阿用小学校

1. 活動の概要

9月1日（木）、雲南市立阿用小学校の5・6年生13人を対象として『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

（1）阿用の歴史

出雲国風土記に書かれた「阿用」の由来を説明しました。続いて、阿用小学校のまわりで遺跡が見つまっていることを、地図を使って紹介し、奈良時代の遺跡から見つかった土器を見たりさわったりしました。

（2）和同開珎作り

古代のお金について説明したあと、4班に分かれて和同開珎作りの体験をしました。火にかけた材料の金属が溶ける瞬間に歓声があがりました。最初はおそろおそろ鑄型に流しこむ児童もいましたが、慣れてくるとスムーズに進めることができていました。鑄型をはずして枝銭が姿をあらわすと、大きな歓声があがりました。

（3）大仏パネル

児童らは、手際良くパネルを並べていました。完成すると二階から全体像を眺め、実物大の大仏の大きさを実感していました。大仏パネルの上で思い思いのポーズをとって記念撮影をしました。その後、当時の大仏の作り方について説明をしました。

2. 活動の様子



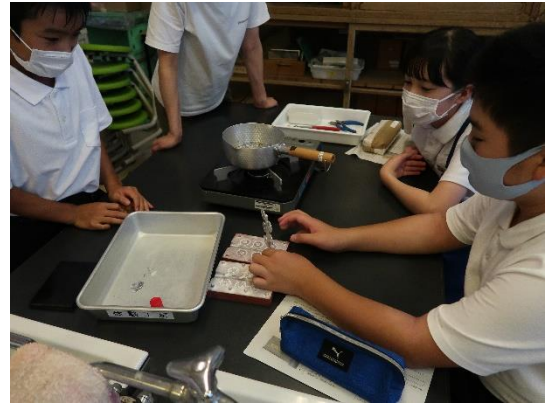
「みなさんの住む町にも遺跡はあります」



実際にさわってみました



「うまくできるか不安」



「キレイにできた！」



みんなで記念撮影



大仏作りの説明

3. 活動を終えて

1) 古代出雲歴史博物館から

どちらも金属を溶かして鋳型に流し込んでつくる和同開珎と大仏、二つの製作手法から、当時の技術を学ぶことができたと思います。そして、大仏パネルの製作を通して、実物の大仏の大きさを実感したようです。

また、阿用の地名の由来や、本物の土器にふれたことで、地元の歴史に興味をもってもらえたと思います。